

草の根通信

Vol.62 (2009年10月30日発行)



「すずめ踊り」のワークショップ

目次

特集「みやぎ大会開催報告」

- 02 みやぎ大会開催報告
- 05 留学生ボランティア頑張る!
- 06 第1回サミット同窓会開催!
- 07 広告
- 08 連載「万次郎夜話」
- 09 広告
- 10 広告
- 11 「サンフランシスコ・ベイエリア大会2010」にご期待ください!
- 12 事務局だより
協賛企業一覧

連載「万次郎夜話」

連載第4回「“白鯨”の渡る海で」

事務局便り

「咸臨丸のつなぐ緑
(白石市からバレットホ市へ)」

協賛企業一覧

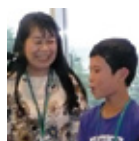
平成20年度寄附協賛企業一覧



松島善意通訳者の会の皆さん



実行委員会事務局を担った
宮城県国際交流協会の皆さん



特集

新たな友情が国境を越えて生まれました
みやぎ大会開催報告

みやぎ大会開催報告

大会スケジュール、松島ローカルツアー／オープニング・クロージングイベント／地域分科会・ホームステイ／早朝オプション／オプション・プログラム

大会ボランティアの活躍をご紹介します

留学生ボランティア頑張る!

第1回サミット同窓会開催!

「第1回サミット同窓会 at みやぎ」を終えて

次回大会は8月24日～31日開催決定!

「サンフランシスコ・ベイエリア大会2010」

にご期待ください!

特集「みやぎ大会」

新たな友情が国境を越えて生まれました みやぎ大会開催報告

第19回米草の根交流サミット・みやぎ大会は、2009年7月28日から8月2日まで、宮城県内各地で開催されました。直前に新型インフルエンザの発生や、未曾有の世界同時不況などの影響を受け、参加者は100名と例年より少なかったものの、「その分実行委員会の配慮も行き届き、質の高いプログラムだった」「期待を超えたすばらしい内容だった。宮城の皆さんに心から感謝している」との感想が寄せられています。

- 大会参加者数：米国からの参加者：約100名
- 財団関係者：約20名（役員、協賛企業、職員）
- 同窓会参加者：約50名（過去大会参加日本人の親睦会）
- イベント別参加者：
 - 1) オープニング・セレモニー参加者：450名
 - 2) クロージング・セレモニー参加者：330名
 - 3) 大会参加者総数：1850名



キーパーソンの紹介の様子。
副実行委員長で南三陸キーパーソンの佐藤久一郎さん

大会スケジュール(旅行日程)

7/27 (月)	参加者・米国出発
7/28 (火)	参加者・成田到着。バスにて松島へ <松島・大観荘泊>
7/29 (水)	松島にてローカルツアー、オープニング・セレモニーと歓迎イベント <松島・大観荘泊>
7/30 (木)	早朝・塩竈魚市場見学後、地域分科会へ出発 <ホームステイ>
7/31 (金) ~ 8/1 (土)	地域分科会プログラム <ホームステイ>
8/2 (日)	地域から仙台ロイヤルパークホテルへ移動 クロージング・セレモニー開催 <仙台ロイヤルパークホテル泊>
8/3 (月)	成田経由で米国へ帰国、またはオプション・プログラム参加

松島ローカルツアー (7月29日)

前日遅く松島のホテル大観荘に到着した参加者は、疲れも見せず午前中から午後にかけて松島でのローカル・ツアーを楽しみました。



これから松島クルーズへ！



瑞巖寺や五大堂などを巡る歴史ツアー



伊達政宗歴史館でみちのくの偉人達の
ロウ人形を見学

特集「みやぎ大会」

オープニングイベント (7月29日)

夕方4時から、いよいよオープニング・イベント開始。記念式典に続き、記念講演会「中濱家とホイットフィールド家、168年の交流秘話」(モデレーター:高島肇久CIE評議員・元NHK解説委員長)で、草の根サミット大会の原点、両家の交流を学びました。みやぎ大会に参加したペリー提督のご子孫からの挨拶、聖路加国際病院理事長の日野原重明氏によるビデオメッセージも式典に花を添えました。



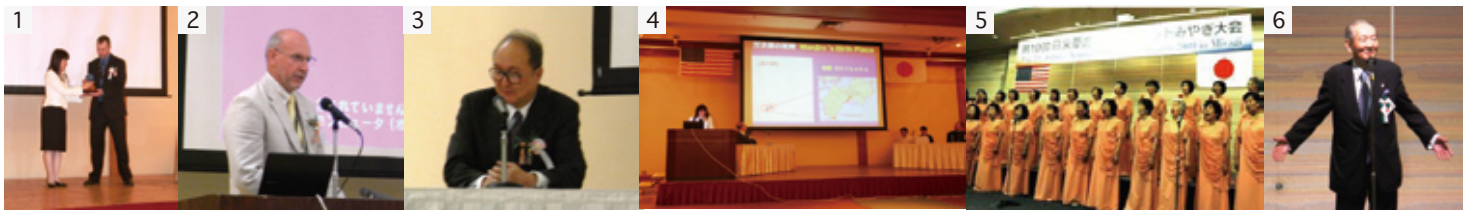
大会名誉会長・
村井嘉浩知事



ロナルド・ポスト
米国大使館
臨時首席公使



渡邊泰造CIE 理事長



その後は、楽しいウェルカムパーティー。宮城の伝統芸能「ハツ鹿踊り」で始まり、鏡割り、リリース・コールのコーラスなどを楽しみながら、美味しい食事で懇談の時間を過ごしました。



写真1: 両家による地球儀交換

写真2: ペリー提督の子孫、マシュー・ペリー氏

写真3: 高島肇久氏

写真4: 記念講演の様子

写真5: リリース・コールのみなさん

写真6: 亀井昭伍大会実行委員長

写真7: 鏡割り

写真8: 早川流清水目 ハツ鹿踊り

クロージング・イベント (8月2日)

地域分科会を終え、参加者はホストファミリーとともにクロージング・イベントの会場となる仙台ロイヤルパークホテルに集合。午後3時から、大会を締めくくるクロージング・イベント第一部・記念式典が開催されました。

第二部のレセプションでは、大会副実行委員長の佐藤久一郎氏による挨拶に続き、キーパーソン麻生菜穂美さんの音頭で乾杯。その後は、亜KIRAさんによる歌、サミット当初から関わっているタエコ・フロイド氏による参加者紹介などで盛り上がりました。レセプションのトリは、サンフランシスコ・ヒップホップダンスチーム「FBC ストーム」によるパフォーマンスと、2010年のサンフランシスコ・ベイエリア大会事務局長の井上ローナ恵さんによる挨拶。「来年はサンフランシスコで会いましょう」と声がかかりました!



仙台市長による挨拶



リチャード・ウッド
CIE-US 理事長



宮城大学教授 宮原育子氏による
「地域プログラム振り返り」



写真1: 誕生日を迎えた参加者を皆でお祝い

写真2: 亜KIRAさん

写真3: ヒップホップチーム「FBCストーム」

写真4: 井上ローナ恵さん

特集「みやぎ大会」

地域分科会－ホームステイ・プログラム (7月30日～8月2日)

7月30日からは、宮城県内15ヶ所の地域で、3泊4日の地域分科会(ホームステイ・プログラム)が開催されました。参加者は、地域の方々の温かさに触れ、忘れられない思い出をたくさん作ることができました。



1

気仙沼 6名



2

登米 4名



3

栗原 5名



4

南三陸 5名



5

大崎・鳴子 5名



6

大崎・古川 4名



7

大崎・松山 4名



8

石巻 11名



9

松島・塩竈 5名



10

仙台 7名



11

岩沼 4名



12

蔵王 8名



13

角田 6名



14

白石 5名



15

名取 4名

特集「みやぎ大会」

早朝オプション (7月30日・8月3日)

7/30 塩竈魚市場見学



早朝出発にも関わらず65名が参加。佐藤昭・塩竈市長の歓迎を受け、迫力のマグロ解体ショーとお刺身を堪能!

8/3 ラジオ体操早朝講座



千葉紀子先生による講座のあとは、お馴染みの音楽に合わせて日本人の長寿の秘訣・ラジオ体操を体験しました。

オプション・プログラム (8月3日～)

大会後、一部参加者は米国へ帰国しましたが、多くの参加者は全国各地へオプション・プログラムへ出発。交流を深めました。



東京フリータイム



京都ホームステイ



能登ホームステイ



東北三大祭り



三重県の親戚訪問

留学生ボランティア頑張る!

みやぎ大会では、宮城県内のボランティアだけでなく、東京周辺に在住の留学生ボランティアたち15名も活躍しました。

アメリカ、カナダ、マレーシア、シンガポール、台湾、フィリピン、中国と国籍もさまざまな彼らは、一ツ橋大学、早稲田大学、国際基督教大学、テンプル大学ジャパンに在籍する学生たちです。

7月初旬の事前研修を終え、大会初日(7/28)の仕事は、グリーンのTシャツを着て成田空港で米国からの参加者をお出迎えすること。

それぞれ異なる航空会社や便で到着する参加者を見つけ出すのは、容易なことではありません。しかし、一人の行方不明者も出ることなく、移動バスへの案内に成功しました。

成田から松島までの道中では、サービスエリアで食堂の案内やメニューの説明、オーダーのサポート、またバス車中ではサミットのオリエンテーションを担当するなど大活躍。オリエンテーションでは、初めて会う方々の前でのプレゼンテーションにかなり緊張の様子でしたが、参加者からは拍手喝采を浴びました。

オープニングやクローージングイベントでは、大会デスクをサポートし、地域分科会(ホームステイ・プログラム)では、他の参加者たちと同様、一参加者としてプログラムを楽しみ、ホストファミリーと交流しました。



東北祭のオプションに参加した留学生たち

彼らのうち6名は、大会後のオプションプログラム「東北三大祭り」にも参加。小岩井農場や奥入瀬散策などをはじめ、岩手・盛岡のさんさ、青森でのねぶた、仙台の七夕など、東北の自然や文化をたっぷり堪能していました。彼らは「インターナショナル・キッズ」と呼ばれ、他のアメリカ人参加者から可愛がられていたようです。

彼らは既に一定期間、日本に滞在していますが、サミット大会で知り合った宮城の方々の温かさは格別だったようです。大会終了直後には、「こんなにステキな体験をさせていただき、本当にありがとうございました」というメールが届きました。

彼らのほとんどは将来、日本と関係のある仕事に就くと思われます。今回の思い出がベースとなって、日本と彼らの国々との間のすばらしいかけ橋となってくれるものと期待しています。



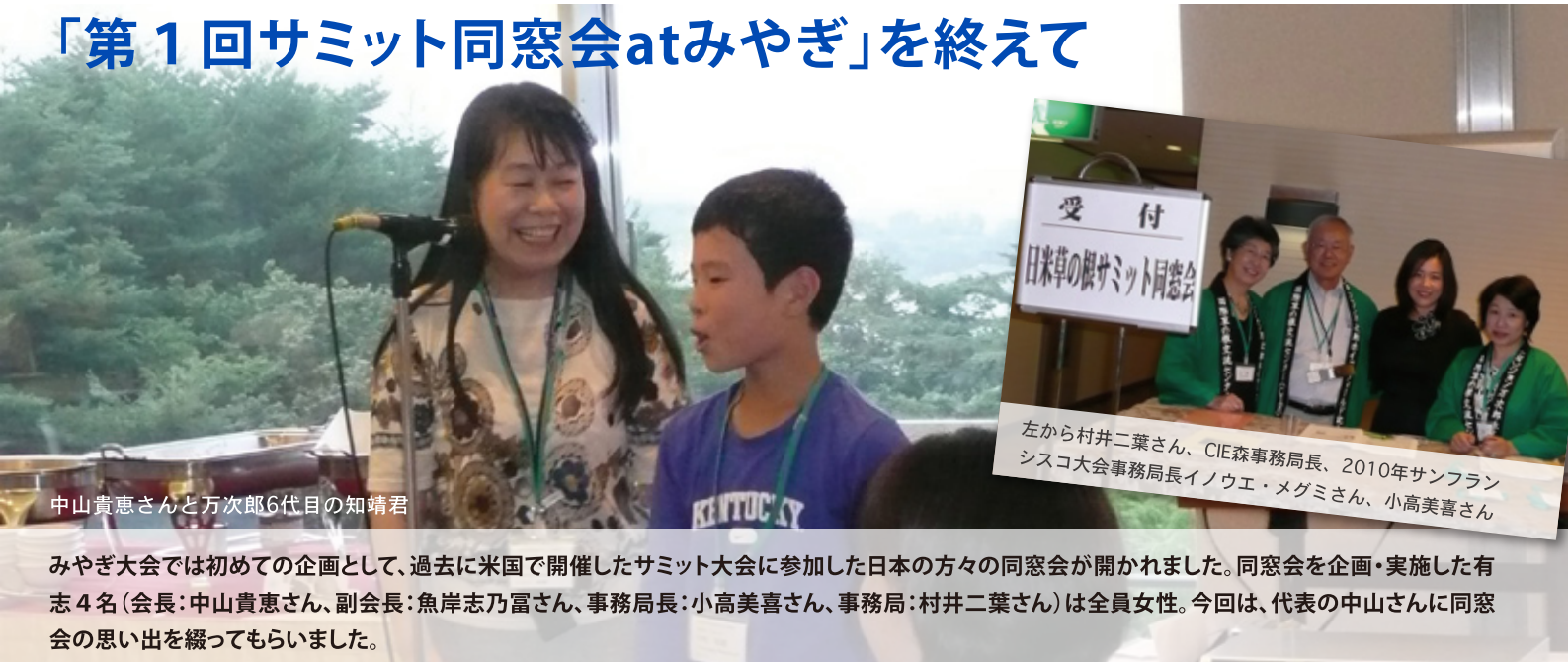
成田でお出迎え



バスの中でオリエンテーション

第1回サミット同窓会開催!

「第1回サミット同窓会atみやぎ」を終えて



中山貴恵さんと万次郎6代目の知靖君

みやぎ大会では初めての企画として、過去に米国で開催したサミット大会に参加した日本の方々の同窓会が開かれました。同窓会を企画・実施した有志4名(会長:中山貴恵さん、副会長:魚岸志乃富さん、事務局長:小高美喜さん、事務局:村井二葉さん)は全員女性。今回は、代表の中山さんに同窓会の思い出を綴ってもらいました。

雨上がりの大観荘に、約50人ものサミット参加OB/OGが集まりました。アメリカまでは少し難しいけれど、国内なら気軽に参加できる人達も多いのではないかと。そんな機会があれば、国内でも普段あまり行けない地域に足を伸ばし、交流を深められるのではないかと。ふと漏らしたこの一言が同窓会を立ち上げ、今回の初開催に至りました。私が19年間、全大会休む事無く参加出来たのも、国内大会に参加する意義と魅力を感じ続けてきたからでした。ただのツアーや温泉旅行ではない、日本の文化や生活習慣の違いを体験でき、日本を訪問したゲストとも交流が出来る機会となれば…。

大会前日の懇親会では、田口俊明理事の乾杯で始まり、和やかにテーブルを囲みながら、食事やおしゃべりに花が咲きました。ジョン万次郎の5代目文さんのご家族、6代目知靖君もケンタッキー大会に引き続き参加し、再会を愉しまました。他にも多くの日本の方々と1年ぶりの再会を果たすことができました。又、来年のサミット開催地、サンフランシスコ・ベイエリア大会実行委員会の事務局長メグミ・ローナ・イノウエさんから次回大会の紹介があり、早くも期待が高まりました。



挨拶をする田口俊明理事

翌日はアメリカの参加者と共に、松島のローカルツアーに参加しました。生憎、午前中は雨の歓迎を受けましたが、緑は一層鮮やかに深みを増していました。前日遅く到着した彼らも疲れを見せる事なく、島巡り、瑞巖寺、歴史館、マリニピアなど訪問し、私達も交流を楽しむことができました。

夕方からはサミットのオープニングに全員で参加。ブラザーズフォーの作詞作曲による「ジョン万次郎賛歌」が高らかに歌い上げられ、宴は大いに盛り上がり、サンフランシスコのヒップホップ・ダンスチームによるパフォーマンスで閉会となりました。

5代目ロバート・ホイットフィールド氏から6代目スコット氏へ、4代目中濱博氏から京さんへ、引き継がれたお二人ともファミリー同様にお付き合いをさせて頂いています。初

めてお会いする様々な方からも気軽に声を掛けられ、確かにバトンを受け取ったと感じました。

翌日は眠い目をこすりながら早朝の塩釜魚市場を訪問。鮪の解体ショーを見学し、大トロや中トロ、普段殆ど市場に出ることのないカマトロを満足するまで頂きました。その後ホテルに帰り、地域分科会に出発するアメリカからの参加者を見送り、私達は帰路に着きました。

自分を知り、自分の国を知ろうとする事は自ら発信することに繋がります。相手を知ろうとすることで知らない人が知っている人になっていきます。相手の国を理解しようとする事で相互理解が高まります。環境や習慣、言葉を超えて友好を深める意義は大きいと感じています。これは日本人の間でも同じことが言えるでしょう。受身だけではなく発信していく姿勢を持ち続けたいと思います。“Keep in touch!”の言葉を添えて。

最後に、同窓会開催にご協力ご尽力を頂いたCIE事務局の皆さま、今回結成された同窓会役員の皆さま、ボランティアの皆さまに心よりお礼を申し上げます。有難うございました。

中山貴恵



世界初。

ANAは世界に先がけて、ボーイング787を導入いたします。

※写真はイメージです。

ANA | A STAR ALLIANCE MEMBER 

www.ana.co.jp

第4回 “白鯨”の渡る海で

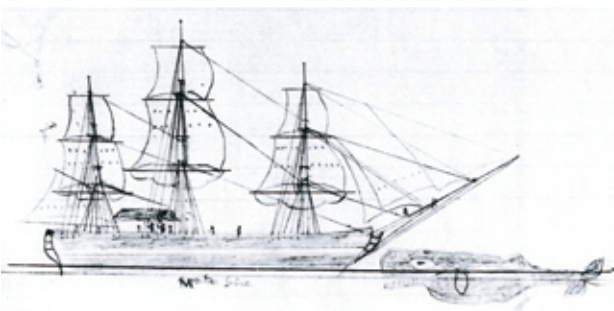


ケンダル捕鯨博物館旧蔵

鯨捕りたちは計り知れない危険に取り巻かれていた。台風、暗礁などの自然の脅威だけでなく、この仕事に伴う危険が数え切れないほどあった。その上、抹香鯨の中には人間に敵意を抱いて襲いかかってくる鯨(ugly whale)さえいた。

1842年9月12日、ジョン・ハヨラン号は日本漁場を離れ、東に進路をとった。そして北緯32度10分、東経165度20分に達したところで、抹香鯨の群れを発見、ボートを下ろした。早速、二等航海士サウスワースのボートが、その一頭に鉤を打ち込んだが、鯨が海中に潜り、鉤網はどんどん繰り出されていった。そこへ一等航海士ウインスローのボートが助けに入ったものの、抹香鯨の巨大な顎でボートは噛み砕かれてしまった。ライマン・ホームズは、翌13日『航海日誌』に、「今度の航海では仕留めた鯨の中で、これほど手強い相手はいなかった。鯨がボートに襲いかかり、戦いを挑んできた」と記した。

こうした戦闘的な抹香鯨(fighting whales)に打ち砕かれた捕鯨ボート、船長をはじめとして殺された鯨捕りは数え切れないほどある。



また、怒り狂った鯨が、ボートではもの足らず、本船に襲いかかり、沈めてしまうことさえある。ナンタケットのエセックス号はその典型的な例である。エセックス号は、ペルーの沖合い、南緯0度40分、西経119度のところで、抹香鯨の頭突きをくらって、ひとたまりもなく沈んでしまう。1820年11月20日のことであった。

連載:『万次郎夜話』 川澄哲夫(CIE評議員・慶應義塾大学教授)

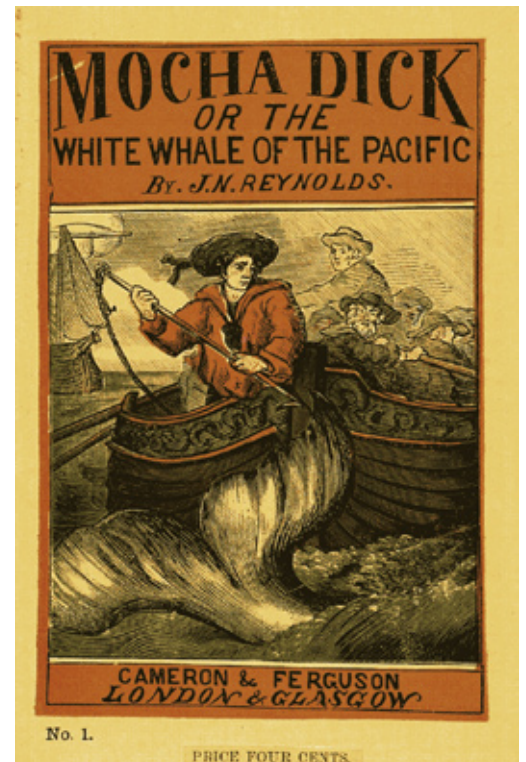
エセックス号を沈めたのはモカ・ディック (Mocha Dick) であると云う人もいる。そのディックが渡る海で、万次郎もハーマン・メルヴィルも抹香鯨を追いかけていた。のちにメルヴィルは、エセックス号をモデルにし、モカ・ディックをモービィ・ディック (Moby Dick) と名を改めて、『白鯨』を書く。

モカ・ディックは、年取った並外れて巨大な雄の抹香鯨である。体一面羊毛のように白かった (he was white as wool!)。ディックは、彼に攻撃を仕掛けてくるボートを、洋上に躍り上がって威嚇したあと、彼の巨大な尾 (flukes) で木っ端微塵に粉碎し、強力な顎 (Jaws) で噛み潰してしまうのである。

ディックがいつ頃からか姿を現すようになったのかについては、意見はまちまちである。

1810年頃、ペルーのモカ島の沖合で、ディックに挑んだ捕鯨船があった。以来、ディックは数知れぬ鯨の敵との戦いに勝利を収めてきた。

ディックの“名声”は増すばかりである。遂には、鯨捕りたちが、あの広い太平洋で出逢う度に、「モカ・ディック」を見たか」(Any news from Mocha Dick?) という挨拶を交わすようにまでなっていた。



MOCHA DICK

ジョン・ハヨラン号がホーン岬を回り、ペルーのカヤオ (モカ島はこの近く) から、遠海に出て、マーケサス、ソシエテ、サモア、キングズミル各諸島沖の漁場で、抹香鯨を追いかけたあと、小笠原諸島近海を通り、鳥島で万次郎たちを救助する間に、ディックは、三度姿を現して、イギリスとロシアの捕鯨船のボート5隻を粉碎し、6人を殺害している。

そして遂に、そのモカ・ディックが日本漁場で大活劇を演ずる。1842年9月末、ジョン・ハヨラン号が抹香鯨の挑戦を受け、手古摺った直後である。ディックが、漂流中の、彼には無害な筈の日本の材木船を攻撃したことに端を発した。巨大な顎で船尾に噛みつき、船板をもぎとってしまう。船が水浸しになったが、辛うじて浮かんでいた。

たまたま近くにいた3隻の捕鯨船—スコットランド、イギリス、アメリカ—が協力して、難敵に当たることになった。それぞれが2隻ずつ、全部で6隻のボートを下ろし、ディックに迫った。まずアメリカのボートがディックに鉤を打ち込んだ。ディックはしばらく死んだふりをしていた。が、突然、物凄いスピードで、スコットランドのボートに突進して行き、舟上に躍り上がった。それから向きを変えると、巨大な顎で、イギリスのボートを啜え、草刈り鎌で一薙するように振り回し、水面に躍り上がって、二人の鯨捕りを噛み潰した。次の瞬間には、海に落ちた鯨捕りたちの間を泳ぎ回り、巨大な尾で二人を叩き殺してしまった。そしてディックはもう一度材木船に戻り、尾の一打ちで止めを刺し、何処ともなく泳ぎ去った。ボートの鯨捕りたちは全員尻尾を巻いて本船に引き揚げていた。

1859年8月、モカ・ディックは、ブラジル沖で、スウェーデンの捕鯨船によって、あえない最後を遂げる。すでに老令のため、瀕死の状態にあったといわれている。

ディックは、半世紀にわたる人間との戦いで、捕鯨ボートを14隻を粉碎、30余命の鯨捕りを殺し、3隻の捕鯨船を完膚なきまでに破壊した。彼の死体には、19本の鉤が突きささり、全長110フィート、胴まわり57、顎は25フィートあった。ちなみにジョン・ハヨラン号は全長111フィートである。



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事

「サンフランシスコ・ベイエリア大会2010」



SBGS 2010

San Francisco Bay Area Grassroots Summit



「サンフランシスコ・ベイエリア大会 2010」 にご期待ください！

来年第20回目を迎える草の根交流サミット大会は、米国カリフォルニア州のサンフランシスコとその周辺都市にて開催することが決定しました。開催時期は夏。8月24日(火)から31日(火)の予定です。

草の根サミットは、日米交互に開催していますから、来年で米国での開催は第10回目となりますが、西海岸での開催はこれが初めて。しかも、1860年にジョン万次郎や福沢諭吉、勝海舟などを乗せた咸臨丸がサンフランシスコに到着してから150年という記念すべき大会になります。



現地ではすでに実行委員会が結成され、着々と準備を進めています。大会実行委員長には元駐日米国大使のマイケル・アマコスト氏が、また事務局長にはメグミ・ローナ・イノウエさんが就任しました。

サミット・スケジュールは、8月24日の午前中にサンフランシスコ空港に到着した後、市内の名所を見学。その後、ダウンタウンの最も華やかな「ユニオン・スクエア」に隣接したホテル「ザ・ウェスティン・セント・フランシス」にチェックイン。ここに2泊を予定しています。同ホテルは、1975年の昭和天皇をはじめ、常陸宮ご夫妻、数々の米国大統領なども宿泊。1945年に国際連合が結成された時に晩餐会が開かれた歴史もあります。



実行委員長
元駐日米国大使
マイケル・アマコスト氏



事務局長
メグミ・ローナ・
イノウエさん

翌25日は、ジョン万次郎や咸臨丸関係者の足跡を辿るツアーなど、朝からいくつかのローカル・オプション・ツアーをご提供できる予定です。北カリフォルニアは、「フォーティナイナーズ」と呼ばれる金を求める男たちで賑わったゴールドラッシュの地でもあります。ジョン万次郎も、ホイットフィールド船長宅にお世話になった後、帰国するための資金をかせぐためにここで金を掘りました。こうした歴史的な場所を訪れたり、あるいはITのメッカであるシリコンバレーでの企業訪問、また広大な農地を耕して大成功した、いわゆるキング達の農場見学、またはワイナリーツアーなどなど、楽しくてしかも学習的要素を含んだものを準備中です。

ホームステイは、サンフランシスコ市に加え、周辺の10を超える地域が名乗りをあげてくれています。これまでの米国の東部・中西部とは一味違った、多様性を感じられるホームステイになることでしょう。

クロージング・イベントは、咸臨丸150周年を記念して開催されるパレードに合わせ、8月29日(日)にサンフランシスコのジャパン・タウンで開催予定です。セレモニーの後は、街に繰り出しホストファミリーと屋台巡りもできます。加えて、咸臨丸記念パレードにも参加していただける予定です。サンフランシスコ・ベイエリア大会では、他では決して経験できない体験をお約束します。今から、ぜひ参加をご予定ください。



事務局だより

咸臨丸のつなぐ縁 (白石市からバレッホ市へ)

事務局長 森 信之

今から149年前に、日米修好通商条約の批准書交換のため、その随伴艦として咸臨丸が米国に派遣されました。

咸臨丸は途中暴風雨に翻弄され何度も転覆の危機に遭遇しましたが、無事太平洋を横断できたのは、捕鯨船で豊富な航海経験を持つジョン万次郎の働きが大であったと言われています。

さて、嵐で損傷した咸臨丸はその後サンフランシスコ湾内にあるバレッホ市の「メア・アイランド海軍造船所」で約1ヶ月もかけて修復されました。しかし、日本で転覆した米国人船員を咸臨丸が無事送り届けてくれたことへの御礼ということでその莫大な修復費用は一切請求されなかったとのことです。

その後、日本に帰港した咸臨丸は、明治維新の時代の波に翻弄されながら輸送船として開拓使の物資や官吏の輸送などに活躍しました。

そして、1871年に函館から小樽に向かう途中、座礁し、沈没してしまいました。

乗船していたのは北海道に移住する仙台藩白石の片倉家家臣団401名でした。

歴史に「if」はありませんが、もし万次郎が乗船していたら、この危機を救ってくれたのでは・・・、ちなみに、今年の夏にはみやぎ大会において白石市がホームステイを受け入れてくれました。

2010年は咸臨丸がサンフランシスコに入港して150周年の記念すべき年にあたります。

サンフランシスコでは、「遣米使節団 SF 入港 150 周年記念実行委員会」を設立し、咸臨丸に関連する様々なイベントを企画していますが、CIE もジョン万次郎とゆかりの深い咸臨丸の記念事業に協賛し、記念すべき第20回目の草の根サミットをサンフランシスコで開催することを決定しました。

10月初旬に、咸臨丸に関係の深いバレッホ市を訪問し、姉妹都市委員会の皆様と会い、来年のホームステイ受入れをお願いしました所、快く引き受けていただきました。

来年の草の根サミットでは咸臨丸の歴史的足跡を辿りつつ、また、万次郎のゆかりの地を訪ねつつ日米交流を深めて行きたいと思っております。



片倉小十郎ゆかりの白石城



バレッホの船体修理ドック



バレッホ市の姉妹都市委員会の皆さん

平成20年度協賛企業一覧

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／アサヒビール株式会社／NTTコミュニケーションズ株式会社
 キッコーマン株式会社／キヤノン株式会社／麒麟ホールディングス株式会社／
 コカ・コーラセントラル ジャパン株式会社／四国電力株式会社／新日本石油株式会社／住友化学株式会社／
 全日本空輸株式会社／株式会社大庄／武田薬品工業株式会社／中部電力株式会社／株式会社デンソー／
 東京海上日動火災保険株式会社／東京電力株式会社／東北電力株式会社／豊田合成株式会社／
 トヨタ自動車株式会社／豊田通商株式会社／トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／
 株式会社永谷園／株式会社ニフコ／日本郵船株式会社／日本ユニシス／パナソニック株式会社／
 日野自動車株式会社／富士ゼロックス株式会社／株式会社ブリヂストン／三井住友海上火災保険株式会社／
 三菱商事株式会社／明治安田生命保険相互会社／矢崎総業株式会社／株式会社菱食